

自分を楽しむ

普通って何？

男として

制限から解放する

役割ルール

母親だから

「男だから、女だから、もう歳なのだから…」と自分を制限して、世間のいう「普通」の枠に収まりがちな私たち。誰がその枠を決めたの？ 今の自分を楽しむには？

女として

役割のないところで

自由にする

父親だから



小口 テル子 さん



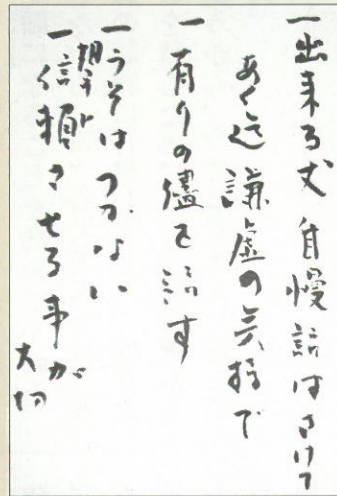
角間 惇一郎 さん

今日も一つ新しい発見をするという言葉が好きです。

60歳で都立病院を退職して、平成3年から浅草植村医院で働いています。仕事は収入を得るためのものだけど、嫌いじゃない。

「小口さんにはバイタリティがある」と周りの人に頼られたり、役に立っているのも嬉しい。若さとは、実年齢ではなく精神年齢だと思う。だから、歳は考えたことないし、関係ないと思う。考えてもどうしようもないしね。

私、感激したことはすぐに書き留めるんです。学生の時も紙に「テル子、がんばれ!」と書いて、いつも眺めていた。今も、心に残る言葉は書いたり、気になったことは図書館に行って調べたりしています。



今回のインタビューにあたり書き留めていたメモ

男じゃなきゃできないってこともないしね。

自分と違う性格の人とお友達になるのも、自分の勉強になるから。私、以前小説を書こうと男友達から書き方を習っていたんですよ。プラトニックラブと言うのかしら。(笑) 精神的なつながりは大切ですね。お友達は年齢・性別に関係なく、いろいろいた方がいいですよ。

女だからって損したと考えたことはなかったです。女だから子どもも産めた。女だって優秀だったら、何でもできる。私は、男女平等だとずっと思ってきました。



旅行中の小口さん夫妻

今やっていることが好きなことかどうか。本当にそれだけなんです。

僕は幸運にも自分の好きなことを知る機会があったんです。それは「誰かの役に立つこと」。その好きなことを自分がわかっていれば、あとは誰に何をするかを、やりながら考えればいい。「普通」はどうするかなんてどうでもいい。

今の若い人たちを見ていると、自分の好きなことが何なのかわかっていない人が多い。人に言われて好きになるとか、好きにならなきゃだめだよって言われて好きになっている人っているんですよ。

自分の好きなことは、誰かに言われたからいいと

思っているんじゃない? 信じ込んでいない? と言いたい。ちょっと疑ったほうがいいと思いますね。

冷たい海に魚を捕りに行くぞと、高い所から押し出されて飛ぶ一羽目のペンギンを意識しています。

「あいつが飛んだから大丈夫だ」

好きなことをやりなさいと言うことは簡単なんですけど、一番説得力があるのは、好きなことをやってどうにかになっている人がいるということ。僕は“飛んだ”経験があるから、何かやりたい人には、背中をドンと押すことはできますよ。

世の中をちょっとかわいく「Crejo」プロジェクト

夜の世界で働く女性たち「くれじょ=ちょっとクレージーな女の子」だからこそ持っている「かわいい」という感性を、オフィスに取り入れたところ、すごく「かわいい空間」ができた。彼女たちが言ったことが形になり、評価され、収入を得る。「こんなこと経験したことがない」と感動する訳ですよ。

みんなと違った感性を持って、みんなと違った生き方をしているから、みんなと違った所へ追いやられて、自己表現の手段や受け入れられる場所がなかった。自分の中に持っているものを、堂々と出せる場があるだけで全然違うのです。くれじょの感性を社会に還元することに一番力を入れています。



「Crejo」のロゴ



オフィスの風景